



TITLE:

# フランスの高校改革と大学入試改革 --高校の内申点重視の功罪--

AUTHOR(S):

細尾, 萌子

---

CITATION:

細尾, 萌子. フランスの高校改革と大学入試改革 --高校の内申点重視の功罪--. 大学入試のあり方を問う --国際比較を通して 2018: 1-12

ISSUE DATE:

2018-05-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/231903>

RIGHT:

## 日本教育学会 近畿地区 研究集会

### 「大学入試のあり方を問う——国際比較を通して」

日 時：2018年5月12日（土）13時半～16時半（受付13時）

場 所：京都大学 本部構内 総合研究2号館1階 教育学部 第一講義室

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r\\_y/](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/)

（上記地図34番の建物、北側1階。建物には、北側入り口からお入りください。）

アクセス：最寄りのバス停「百万遍」

地下鉄今出川駅・京阪出町柳駅より市バス201番

阪急河原町駅より市バス201番

京都駅より市バス17番・206番 など。

※詳細は、次のウェブサイトをご確認ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/>

講演者：次橋 秀樹氏（京都大学大学院教育学研究科・博士後期課程・大学院生）

「日本における入試改革動向と国際バカロレアの可能性」

細尾 萌子氏（立命館大学・准教授）

「フランスの高校改革と大学入試改革—高校の内申点重視の功罪—」

南部 広孝氏（京都大学大学院教育学研究科・教授）

「東アジア諸国における大学入試改革の動向」

趣 旨：日本においては、少子化が本格化し、大学全入時代に突入する中で、現在、急ピッチで大学入試の改革が進められている。その中では、2021年からの大学入学共通テストの導入、各大学におけるAO入試・推薦入試の拡大などを通して、多面的・多角的な評価の実現が目指されている。この研究集会では、日本の改革動向を整理するとともに、東アジア諸国やフランスにおける大学入試改革、ならびに国際バカロレアのシステムや内容を検討し、大学入試のあり方を考えたい。

司 会：田中耕治（佛教大学）、石井英真（京都大学）

挨拶：田中耕治（日本教育学会近畿地区理事／佛教大学教授／京都大学名誉教授）

主 催：日本教育学会近畿地区

（担当：日本教育学会近畿地区理事・田中耕治〔佛教大学〕／同・西岡加名恵〔京都大学〕）

後 援：京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM

照 会 先：西岡加名恵（[nishioka.kanae.2v@kyoto-u.ac.jp](mailto:nishioka.kanae.2v@kyoto-u.ac.jp)）

備 考：どなたでも自由に参加できます（事前申し込み不要／参加費無料）。

## フランスの高校改革と大学入試改革—高校の内申点重視の功罪—

細尾萌子（立命館大学）hosoo@fc.ritsumeit.ac.jp

### 目次

- (2) 現在の制度：フランスの高校とバカロレア試験
- (3) 2020-2021 年度から実施の新制度：フランスの高校とバカロレア試験
- (4) バカロレア試験への内申点導入に関する論点
- (5) おわりに：日本への示唆

### (1) はじめに

日本では、高大接続改革が進んでいる。一般入試については、次の二つの問題が指摘されている。一つ目は、知識の暗記・再生の評価に偏りがちであることである。二つ目は、記述式を実施している場合でも、複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる能力や、その過程や結果を表現する能力は十分に評価されていないことである。AO 入試や推薦入試については、一部が「学力不問」であることが問題視されている。そこで、各大学の個別入試を、「学力の 3 要素」（知識・技能、それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を多面的・総合的に評価する選抜法に改善することが求められている<sup>1</sup>。

フランスの大学入試であるバカロレア試験は、200 年以上も論述試験が中心であり、まさに上述の下線部の能力を評価してきた。この点は、日本のこれからの大学入試の模範となりえる。たとえば、2006 年の地理のバカロレア試験では、「アメリカの海外直接投資の出入」の図と、「世界の金融システムにおけるアメリカの役割」という文章の二つの資料をもとに、「アメリカの金融の流れを特色づけよ」という題について論述する問題が出題された<sup>2</sup>。

さらに興味深いのは、2020-2021 年度からは、バカロレア試験の 40%を高校の内申点で評価する制度に改革されることである。

日本にとっては、内申点の導入は自明のように思えるかもしれない。内申点を選抜資料に用いる AO 入試や推薦入試が、一般化しているからである（大学入学者の約 4 割を選抜）。だが、内申点の導入は、フランスにとって、重要な意味を持つ。なぜなら、「共和国の学校」モデルの部分的な崩壊を意味するからである。バカロレア試験は、国家としての能力の規準を示すものであった。試験は全国共通問題であり、そこで問われる能力によって、中等教育の実践が規定されてきた<sup>3</sup>。バカロレア試験に基づく同一の知を平等に伝達することで、

<sup>1</sup> 高大接続システム改革会議『最終報告』2016 年 3 月 31 日、pp. 3-7、41-47。

<sup>2</sup> 細尾萌子「フランスのバカロレア試験で問われる学力と高校の教育目標との連続性—地理の試験問題と教科書の分析を通して—」『教育目標・評価学会紀要』第 20 号、2010 年、pp.29-38。

<sup>3</sup> Merle, P. «Faut-il enterrer le contrôle continu au bac ? l'anonymat : un gage d'équité»,

フランス共同体を維持・発展させる市民を育成するというのが、学校教育の建前であったのである。国家がコントロールできない内申点の導入は、その建前の放棄につながる。

本発表では、バカロレア試験改革の概要とともに、内申点の導入に関する主要な論点を整理し、内申点導入で試験のあり方がどう変わるかについて指摘する。その際、日本の大学入試と比較しやすい普通バカロレア試験に絞って検討する。その上で、フランスを鏡として、日本の大学入試への示唆について考察する。

## (2) 現在の制度：フランスの高校とバカロレア試験<sup>4</sup>

### ・フランスの学校

基本的に3年制（2歳就学の場合は4年制）の保育学校、6歳で入学する5年制の小学校、4年制の中学校、3年制の高校、さまざまな高等教育機関からなる。大学の学部は3年制。

### ・フランスの高校とバカロレア試験の対応

高校2・3年生は、表1のように、複数のコースにわかれている。バカロレア試験は、各コースに対応して行われている。試験では、表2のように、高校で履修したほとんどの教科が出題される（12～16科目）。全教科の平均点が、20点満点中10点以上で合格となる。

表1 高校とバカロレア試験のコースの対応<sup>5</sup>

高校	系・専門領域	バカロレア試験
普通科	・経済・社会系（ES） ・文学系（L） ・科学系（S）	当該の系の普通バカロレア試験
技術科	・工業・持続可能な発展系（STI2D） ・実験科学系（STL） ・マネジメント・経営系（STMG） ・健康・福祉系（ST2S） ・デザイン・応用芸術系 ・ホテル業・外食産業系（STHR） ・音楽舞踊系（TMD） ・農学・生物系（STAV）	当該の系の技術バカロレア試験
職業科	工業製品整備、輸送、受付、販売、調理、写真など100以上の専門領域	当該の専門領域の職業バカロレア試験

in *Le Monde de l'éducation*, No.282, 2000, p. 44.

<sup>4</sup> 細尾萌子『フランスでは学力をどう評価してきたか—教養とコンピテンシーのあいだ—』ミネルヴァ書房、2017年、pp. 16-21、pp. 60-61。試験制度の詳細については、次を参照。細尾萌子「フランスのバカロレア試験における評価観—問題作成と採点に関する議論の歴史的検討を通じて—」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第56号、2010年、pp. 387-399。

<sup>5</sup> フランスの国民教育省のホームページ

<http://www.education.gouv.fr/cid52709/les-enseignements-de-premiere-et%20terminale.html> と Eduscol のホームページ（2018年5月5日確認）

<http://eduscol.education.fr/pid23236-cid47640/le-baccalaureat-professionnel.html>（同日確認）をもとに発表者が作成した。

表2 科学系における高校第2・第3学年の教科とバカロレア試験教科の対応<sup>6</sup>

高校	バカロレア試験			
教科名	試験教科名	配点指数	試験形式	時間(時間)
必修教科 フランス語 個別課題学習 数学 物理・化学 生命・地球科学または 生態学・農学・領土または 工学 歴史・地理 第一外国語・第二外国語 哲学 体育・スポーツ 道徳・公民 個別学習支援	予備試験 フランス語 フランス語 個別課題学習 本試験 数学 物理・化学 生命・地球科学または 生態学・農学・領土または 工学 歴史・地理 第一外国語 第二外国語 哲学 体育・スポーツ	2 2 2 7 6 6 7 6 3 3 2 3 2	筆記 口述 口述 筆記 筆記・実技 筆記・実技 筆記・実技 筆記・口述 筆記 筆記・口述 筆記・口述 筆記 内申点	4 1/3 3人で0.5 4 3.5+1 3.5+1 3.5+1.5 4+1/3 3 3(筆記) 2(筆記) 4
専門教科(3年)(1教科選択) 数学 物理・化学 生命・地球科学 情報・デジタル科学 生態学・農学・領土	専門教科(1教科選択) 数学 物理・化学 生命・地球科学 情報・デジタル科学 生態学・農学・領土	9 8 8 2 2	筆記 筆記・実技 筆記・実技 口述 口述	4 3.5+1 3.5+1 1/3 1/3
自由選択教科(最大2教科選択可) 第三外国語 ラテン語の言語と文化 ギリシャ語の言語と文化 体育・スポーツ 芸術 馬学・馬術 社会的・文化的実践 情報・デジタル創造(高2のみ)	自由選択教科(2教科受験可) 第三外国語、ラテン語、ギリシャ語、体育・スポーツ、芸術、馬学・馬術、社会的・文化的実践、フランス手話	2 (ラテン語とギリシャ語の傾斜配点は3)	10点を超えた点数のみ換算。	

(注) 生態学・農学・領土と、馬学・馬術、社会的・文化的実践は農業高校の生徒のみ。

試験の中心は、自由記述式の論述試験。選択肢問題はほとんどない。口述試験と実技試験もある<sup>7</sup>。体育・スポーツのみ、内申点で評価されるが、その傾斜配点は小さい。

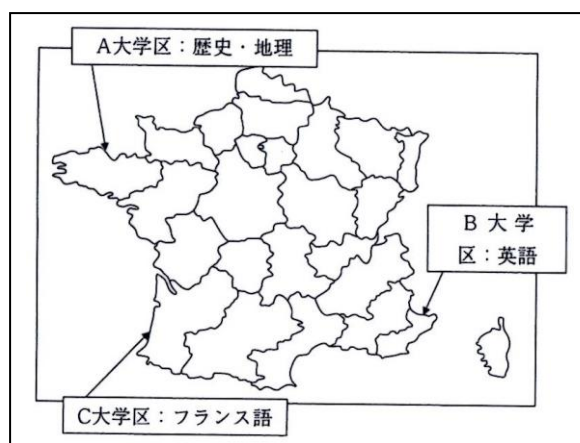
<sup>6</sup> EduSCOL のホームページ

(<http://eduscol.education.fr/pid23233-cid58536/serie-s-a-partir-de-2013.html>、<http://eduscol.education.fr/cid66271/serie-s.html>、2018年5月4日確認)をもとに発表者が作成。

<sup>7</sup> 例えば、外国語の口述試験は、全国統一の評価基準に基づいて、担任教師が行う。英語の

バカロレア試験は、高校最終学年末に全国一斉に実施。合格者には、中等教育の修了認定と高等教育の入学資格が付与。合格者は基本的にどの大学にも入学でき、各大学の選抜試験は行われていない。

2017 年の合格率は全体で 87.9%（普通バカロレア試験は 90.7%）で、同一年齢層のバカロレア取得率は 78.9%<sup>8</sup>。



・問題作成の制度 ←日本の入試との違い  
多様な高校の教員が作問。本土の場合、問題は全国共通  
Cf.

図 1 問題作成の割り振り

出典：細尾萌子『フランスでは学力をどう評価してきたか—教養とコンピテンシーのあいだ—』ミネルヴァ書房、2017 年、p. 20。

図 1 のように、各教科の問題作成が大学区（フランス本土を 26 に区分）間で割り振られ、各大学区に委員会が設置。視学官 1 名と大学教員 1 名が共同委員長を務め、委員は多様な高校の教員で組織。試験実施の約 9 ヶ月前に、委員は高校の学習指導要領に基づいて、協議しながら問題を作成し、採点の方針を示す採点に関する勧告を策定。各大学区で作られた問題と採点に関する勧告は、全国共通に使われる<sup>9</sup>。

・採点を調整するモデレーション（modération）の制度 ←論述試験の評価の信頼性確保  
試験の採点は、合意委員会（commission d'entente）と調整委員会（commission d'harmonisation）、合否判定委員会（délibération des jurys）という、各大学区に設置される三つの組織で実施。試験終了後の合意委員会では、採点者の一部が数枚の答案を共同採点する研修。ここで決定された評価基準は、採点者全員で共有。その後 2 週間程で高校教員が採点。この終盤に採点者全員で調整委員会を開き、採点結果（得点分布の平均や分散など）を採点者間で統計的に調整。採点後に、合否判定委員会。採点者間で採点結果を比較し、ばらつきが大きい場合は低い方の点数を上げることができる。また、受験者の学習記録簿（日本での指導要録）の成績が良い場合は、合否ラインの点数を上げられる。

---

音声聞いてその内容をフランス語で書く試験と、既習の概念について英語で話して教師と質疑応答する試験（Note de service du 3 octobre 2011, B. O., no. 7, du 6 octobre 2011）。物理・化学の実技試験は、全国統一の問題バンクの中の問題について、担任教師ではない教師二名が行う。生徒は、問題の分析、実験方法の考案、実験の実施、仮説と結果の考察を行う（Note de service du 13 janvier 2014, B. O., no. 4, du 23 janvier 2014）。

<sup>8</sup> Fanny T., «Le baccalauréat 2017. Session de juin», in *Note d'information*, no. 17.18 du juillet 2017.

<sup>9</sup> Note de service du 19 mars 1996, B. O., no.13, du 28 mars 1996.

### (3) 2020-2021 年度から実施の新制度：フランスの高校とバカロレア試験<sup>10</sup>

#### 1) 改革の三つの理由：マクロン大統領の改革<sup>11</sup>

①今の制度は試験一発勝負であるため、短期間で知識を詰め込む受験準備勉強（bachotage）を招く。その解決のため、高校での学習成果を長期的に評価する制度にしたい。

②高校の重い負担を減らしたい。試験を簡素化したい。

2900 種類の問題作成や 4 万枚の答案の採点に高校教員が動員され、バカロレア試験がある 6 月は通常の授業ができない（学年始まりは 9 月）。

③バカロレア試験は高等教育の期待に応えていない。大学生の 61%が学業失敗（入学時のコースを終えられない。規定の 3 年で学士を取得できるのは入学者の 27%）。高等教育に生徒が円滑に接続できる制度に改革したい。

⇒①②のために、バカロレア試験の科目を減らし、内申点評価を大幅に導入。

③を解決するため、高等教育入学者調整手続き（parcoursup）を導入<sup>12</sup>。バカロレア試験合格者に対する、実質上の大学入学者選抜。

Cf. 受験者が各自、希望の進学先を 10 まで専用サイトに登録し、高校 2 年生のバカロレア試験の点数や、高校 2・3 年生の成績などの情報を入力。大学などの高等教育機関は受験者を序列化し、入学可か回答（無選抜制の大学では、定員割れの場合は、バカロレア取得者は全員入学できるが、定員より入学希望者が多い場合は入学できない場合もある）。

・ 2020-2021 年度から、改革が全面実施（学年終わりは 6 月）。

Cf.

2018 年 12 月 高校の新学習指導要領の告示

2019 年 9 月 高校 2 年生の新課程の施行。内申点評価の開始。

---

<sup>10</sup> Ministère de l'Éducation nationale, *Baccalauréat 2021*, le 14 février 2018. Pierre Mathiot, *Baccalauréat 2021. Rapport remis par Pierre Mathiot. Professeur des universités*, le 24 janvier 2018.

<sup>11</sup> 2017 年 5 月就任のマクロン大統領の選挙公約（バカロレア試験の地位・意義・有効性を強化し、高等教育に向けて生徒を準備。試験は 4 教科に減らして高校の内申点を導入）が改革のきっかけ。2017 年 11 月、ブランケ（Blanquer）国民教育大臣が、リール第二大学の政治学者マチオ（Pierre Mathiot）教授に、改革草案の作成を依頼。マチオ教授は、組合などの制度のアクターに関する研究者で、ブランケ大臣の長年の友人（Piquemal M., «Pierre Mathiot, bachoteur», in *Libération*, le 23 janvier 2018）。マチオ教授は教員、保護者、生徒、視学官、組合など、様々なアクターへの聞き取り調査や、高校生への質問紙調査や、他国の試験制度の研究も行い、改革のシナリオを報告書にまとめ、2018 年 1 月に提出。この報告書を一部修正し、2018 年 2 月に、ブランケ大臣が改革案を発表。

<sup>12</sup> parcoursup のホームページ、<https://www.parcoursup.fr/>、2018 年 5 月 2 日確認。

2020 年 6 月 高校 2 年生のバカロレア新試験の実施

2020 年 9 月 高校 3 年生の新課程の施行。

2021 年の春と 6 月 高校 3 年生のバカロレア新試験の実施

### 3) 普通バカロレア試験改革の内容

#### ①高校での内申点 (contrôle continu) : 40%

- ・ 30%は生徒が履修した科目の共通試験 (épreuve commune) の点数、10%は「学習記録簿」の点数。

- ・ 共通試験は、各高校で、高校教員が実施。

- ・ 生徒間・学校間の平等を確保するための、共通試験の三つの工夫。

1. 全国共通の問題バンクから選択した問題で実施。
2. 匿名採点 (生徒の担任教師ではない教師が、名前を見ずに採点)。
3. 採点者間で評価基準を調整するモデレーション (harmonisation)。

☞詳細は未定。問題間の難度調整はするのか？ラテン語など、学校に教員が一人しかいない教科では、どうやって匿名にするのか？学校間で評価基準の調整は可能？

#### ②最終試験 (épreuve terminal) : 60% (筆記試験は 4 科目)

- ・ 高校 2 年生の学年末 (6 月) に、フランス語の試験 (筆記試験と口述試験)
- ・ 高校 3 年生の春 (4 月頃) に、生徒が履修した専門科目 2 科目の試験 (筆記試験)
- ・ 高校 3 年生の学年末 (6 月) に、哲学の筆記試験と、専門科目の口述試験 (口述試験は、2・3 年生の専門科目 (一つか二つ) で行った活動の紹介と、質疑応答。試験官は 3 人。試験時間は 20 分。正確なフランス語で表現する力と、既習知識を活用して分析する力を評価)

☞スケジュールは表 2 の通り、高 2・高 3 は、公的な試験が年に 3 回 + 内申点評価

表 2 高校普通科の試験スケジュール (発表者作成)

・ 高校 2 年生の 1 月と 4 月 : 内申点評価のための共通試験	↓	9~6 月 : 学習記録簿の評価
・ 高校 2 年生の 6 月 : フランス語のバカロレア試験		
・ 高校 3 年生の 12 月 : 内申点評価のための共通試験	↓	9~6 月 : 学習記録簿の評価
・ 高校 3 年生の 4 月頃 : 専門科目 2 科目のバカロレア試験		
・ 高校 3 年生の 6 月 : 哲学と専門科目のバカロレア試験		



#### 4) 高校改革の内容：普通科

- ・従来のコース（文学系・科学系・経済社会学系）を廃止<sup>13</sup>。

Cf. 生徒の多くは高等教育の進学先とのつながりではなく、学力レベルとの対応だけでコース選択しているため。科学系の生徒の 40%が理系の学習を継続しようと考えていない。理系の学習に興味があるが科学系や経済社会学系に入れず、技術科に送られないように文学系に入るなど。

・高校 2 年生・3 年生の科目は表 3 の通り。全員必修の「共通教養の基礎 (socle de culture commune)」が 7 科目、選択必修の専門科目が 2 年生は 3 科目、3 年生は 2 科目、進路指導が必修、選択科目が 2 年生は 1 科目まで、3 年生は 2 科目まで。

表 3 高校普通科 2 年生・3 年生の科目一覧

	科目名	2 年生	3 年生
共通教養 の基礎	フランス語	4 時間	
	哲学		4 時間
	歴史地理	3 時間	3 時間
	道徳・公民	30 分	30 分
	第一・第二外国語	4 時間半	4 時間
	体育・スポーツ	2 時間	2 時間
	科学的・デジタル人文学	2 時間	2 時間
計		16 時間	15 時間半
専門科目 (2 年生 は 3 科目 を選択。3 年生はそ のうち 2 科目を選 択)	芸術	4 時間	6 時間
	歴史地理・地政学・政治学	4 時間	6 時間
	人文学・文学・哲学	4 時間	6 時間
	言語・外国文学	4 時間	6 時間
	数学	4 時間	6 時間
	デジタル・情報科学	4 時間	6 時間
	生命地球科学	4 時間	6 時間
	工学 (技術科と関連した時間設定)	...	...
	経済社会科学	4 時間	6 時間
	物理化学	4 時間	6 時間
計		12 時間	12 時間
進路指導 (グループ活動や能力別教育など、学校裁量の活動)		1 時間半	1 時間半
選択科目	芸術 / 古代の言語と文化 / 体育・スポーツ / 第三外国語の中から最大 1 科目を選択	3 時間	
	上記の科目と、専門数学 / 補充数学 / 法律と現代社会の重要課題の中から最大 2 科目を選択		3 時間
総計		32 時間半	31 時間半

出典：Ministère de l'Éducation nationale, *Baccalauréat 2021*, le 14 février 2018, p.19.

<sup>13</sup> この三つのコースは 1995 年から施行されていた (国民教育省のホームページ、<http://www.education.gouv.fr/cid145/le-baccalaureat-general.html>、2018 年 5 月 5 日確認)。

#### (4) バカロレア試験への内申点導入に関する論点

##### 1) 受験準備勉強を収めるために、バカロレア試験に内申点を導入すべきか

###### ①反対派：バカロレア試験中央局長のピオベッタ

バカロレア試験は1808年に創設。初期のバカロレア試験では、バカロレアが大学の第一学位であることから、大学教員が作問・採点。大学教員は中等教育の内容に不慣れであったため、バカロレア試験では、中等教育の内容を超える知識が問われていた。

→高校では、暗記偏重の受験準備勉強 (bachotage)。生徒は授業に集中せず、受験参考書の学習に没頭

(50年以上未解決：1838年 Salvandy 文相、1840年 Cousin 文相、1852年 Fortoul 文相、1862年 Rouland 文相、1863年 Duruy 文相が指摘。1885年の世論調査でも問題視)。

- ・1890年：中等学校の学習記録簿をバカロレア試験受験時に提出できるように。  
(学習記録簿の成績が合否判定の計算に入るわけではないが、合否判定時に考慮されるように。これは教員団体や世論が希求してきた制度で、1885年の世論調査でも大半が賛同)

###### ○内申点導入の提案

- ・コンブ文相案 (1896年)：バカロレア試験をなくし、中等学校最終2学年の進級試験だけで合否判定
  - ・ランボ文相案 (1897年)：バカロレア試験と中等学校の学習記録簿の合算で合否判定
- いずれも廃案。中等学校の学校間格差や、保護者や生徒が教員に圧力をかけて成績に影響する恐れにより、試験の公平性を担保できないことが理由。

⇒バカロレアの価値を保証するには、内申点評価よりも外部試験の方が望ましい<sup>14</sup>。

###### ②一部賛成派：パリ第一大学の歴史家プロスト教授 (1983年の高校改革の報告書) <sup>15</sup>

- ・バカロレア試験に向けて知識を詰め込む受験準備勉強が、受験生のエネルギーの大半を動員 (フランス語のテキスト説明の試験に向けて、出題される主要テキストの解釈を暗記など)
- ・高校の成績簿に示された形成的評価を合否判定の材料として加味することを提案。外部試験の点数を高校での学習履歴に照らして修正し、学習成果をより公正に評価するため。

---

<sup>14</sup> Piobetta J.-B., *Le baccalauréat*, Paris: J.-B. Baillière et Fils, 1937, p. 70, p. 93, p. 107, p. 113, pp. 118-119, p. 182, p. 212, pp. 219-223, pp. 329-330.

<sup>15</sup> Prost A., *Les lycées et leurs études au seuil du XXI<sup>e</sup> siècle*, Paris: Ministère de l'Éducation nationale, 1983, pp. 135-139.

③反対派：フランス最大の中等教員組合（SNES）

・2007年の大会：各学校での試験や内申点のバカロレア試験への導入には反対。①保護者が学校に圧力をかけうる。②教師が教育者ではなく選抜者になってしまい、教師と生徒の関係が変質。③通う高校によって取得したバカロレアの価値が異なってしまい、不平等<sup>16</sup>。  
・今回の改革についても、同様の理由で、内申点導入反対の嘆願書を提出（SNES 調査によると、教員の70%が反対）<sup>17</sup>。

## まとめ

受験準備勉強の抑制のために、内申点の導入が絶えず提案されてきた。しかし、受験準備勉強抑制の可能性よりも、公平性の欠如や、教師・生徒・保護者の関係悪化の問題が重要視され、内申点は導入されてこなかった。

**2) 日常的な学習の成果を評価できる内申点評価の方が、一発勝負の外部試験より公正か(生徒の社会的背景や生来の属性に影響されずに生徒の学習成果（メリット）を評価できるか)**

○内申点評価支持派の意見（国民教育省の社会学者ポシェなど）

・現在のバカロレア試験でも、採点のばらつきは大きい。日頃生徒に面している担任教師が、生徒の学習の質を最もよく判断できる<sup>18</sup>。  
・外部試験では、運によって成否が決まる（慣れた問題かどうか、当日の体調がどうか、など）。内申点評価の方が、運によって左右されにくいので、公正性を担保できる<sup>19</sup>。

⇔内申点評価の問題点

○オジェ氏の統計的な調査<sup>20</sup>

高校3年生の時の成績と、バカロレア試験の成績の相関は少ない（特に、外国語を除く文系科目）。高校3年生の時の成績評価では、留年していない生徒と、出身社会階層の高い生徒と、女生徒が有利な評価を受けている。

→内申点評価は、社会的・文脈的な影響を受けている。

---

<sup>16</sup> Pauchet C., *Faut-il supprimer le bac ?*, Paris : Larousse, 2008, pp. 112-113.

<sup>17</sup> SNES のホームページ、「Le contrôle continu au bac ? C'est non ! (pétition du SNES) le 19 décembre 2017», <http://www.vousnousils.fr/2017/12/19/le-contrôle-continu-au-bac-cest-non-snes-610829>, 2018年5月9日確認。

<sup>18</sup> Pauchet, *op. cit.*, pp. 114-115.

<sup>19</sup> Legrand P., *Le bac chez nous et ailleurs*, Paris: Hachette Éducation, 1995, pp. 100-101.

<sup>20</sup> Oget D., *Efficacité et coûts du baccalauréat général et technologique : quelle alternative à l'organisation des épreuves*, Thèse présentée à l'Université de Bourgogne, 1999, p. 307.

○ブルターニュ教職教育高等大学院の教育評価論者メルル教授：高校教員にインタビュー<sup>21</sup>

①評価基準が高校によって異なる。

②様々な採点のバイアスがある。

・点数は、生徒のさまざまな社会的・学校的文脈によって「作られている」。

多くの教師は第一回目の授業で、生徒に個人票 (*fiche de renseignements*) を書かせる。そこに書かれた以前の成績や、年齢 (落第の有無)、保護者の職業などが、評価の厳しさ・甘さに影響 (個人票は公的な制度ではないが、生徒や保護者を理解するために、多くの教師が自主的に実践)。

・点数は、教師と生徒または教師間の相互関係の中で「調整」されている。

1. クラスの秩序を保つために、騒がしい生徒への制裁として点数を低くする (学習態度がよい生徒の答案はさっとしか見ないが、態度が悪い生徒の答案はあら捜しをするなど)。
2. 生徒の学習意欲を保つため、点数の上限と下限を設ける (3~17 点など)。0 点近くの低すぎる点数は、生徒を失望させて、学習意欲をなくさせる。反対に、20 点近くの高すぎる点数は、生徒を慢心させて、士気をそぐ。
3. 生徒の学力レベルによって意欲の高め方は違うので、評価の厳しさを調整する。困難校では、生徒の多くは中学校から成績が悪く、負け癖がついている。生徒たちを発奮させるために、授業に出ている生徒には、その報酬として (目標に達していなくても) 最低限の点数をあげる。一方、進学校では、まずまずの答案について、努力の余地があるとして低い点数をつけるし、生徒もそれを受け止めて一層努力する。選良の中の選良を選抜するのが進学校での採点であり、低い点数を取り続けると「ふつう」の学校に転校になるから。
- 4 同じ学校の他の教師と点数分布が同様になるように、課題の難易度や傾斜配点を調整。

→内申点評価は、評価基準を自動的に適用して行われているわけではない。教えている生徒や同僚との教育的関係を良好に保ち、教育効果を上げるために、点数は調整されている。

⇔

○国民教育中央視学官のルグラン氏：モデレーションをすれば内申点が使え<sup>22</sup>

イギリスのように、各クラスの内申点と全国の内申点の平均点や分散を比較する統計的調整を行えば、内申点の学校間格差は解決できる。教員の情実の問題については、全教科で外部試験と内申点評価の両方を行い、試験の点数と内申点を比較すれば、歪みをなくせる。

---

<sup>21</sup> Merle P., « Les réformes du bac et de l'accès à l'université suscitent de multiples réserves », in *Le Monde*, le 27 janvier 2018. Merle P., *Les notes. Secrets de fabrication*, Paris: PUF, 2007, pp. 7-23, pp. 54-76.

<sup>22</sup> Legrand, *op. cit.*, pp. 102-104.

☞高校間には実際に学力格差があるので、前者の統計的調整は妥当性を欠くのでは？後者は費用がかかりすぎるのでは？

#### まとめ

匿名で一発勝負である外部試験よりも、対面でなされる継続的な内申点評価の方が、生徒の学習成果を多様な観点から総合的に把握できるかもしれない。しかし、内申点評価が点数に換算される過程で、学校間格差や採点のバイアスが影響し、学習成果が点数に正確に反映されていない。この問題を妥当なコストで解決できるモデレーションの方法はまだ見つかっていない。他方、外部試験の場合は、採点のばらつきや運の影響はあっても、学校間格差や採点のバイアスの影響は少ない。したがって、外部試験と内申点のどちらが学習成果をより正確に映し出せるかは一概にいけない。

#### (5) おわりに：日本への示唆

バカロレア試験改革により、フランスでは、日本でいう大学入試の「多様化」が進むと考えられる。内申点評価は全国統一に公平に行われるという建前の制度であるが、実際にはそれは非現実的である。学校間格差や採点のバイアスによって、内申点評価の内実は、高校・教師によって多様になる。すなわち、改革は、バカロレア試験で担保される学力の実態が「多様」になることを意味する。内申点評価の公正性担保は難しいが、その「罪」を受け入れてでも、受験準備勉強の抑制と試験のコスト軽減という「功」を重視する選択をフランスはしたのだろう。ただし、中等教員組合は改革に強く反発しており、マクロン政権の終焉とともに、改革が帳消しになる可能性もある。

入試への内申点導入に関する議論は、日本では、昭和2年の旧制中学校入試改革にさかのぼる。その際の論点は、バカロレア試験に関する議論と重なる。入試に向けた受験準備教育が問題視され、昭和2年の入試では、学科試験の出題が禁止された。代わりに、内申書で一次選考を行い、口頭試問と身体検査で最終選抜することになった。だが、内申書に関して、評価基準の学校間・教師間格差や、教員の情実など、公正性に関する問題が指摘された<sup>23</sup>。

大学入試への内申点の導入についても、受験準備勉強抑制の効果と、内申点評価の信

---

<sup>23</sup> 昭和5年には、学科試験による入試が復活している（天野正輝「1920年代における中等学校入試選抜法の改革」『京都大学教育学部紀要』第41号、1995年、pp.75-77）。栃木県では、昭和3年度の入試においてすでに、内申書ではなく、口頭試問が、選抜判定基準として重視されていた。口頭試問の問題の7割は、教科書の知識の記憶力という、従来の学科試験で問われている能力と同等の能力であった。このことは、旧制中学校の内申書不信と学科試験への執着を示している（細尾萌子「昭和2年の中学校入学者選抜方法改正時における二つの評価論の位相——栃木県内中学校の昭和3年度入学考査の方針及び人物考査問題の分析を通じて——」『関西教育学会年報』第32号、2008年6月、pp.36-40）。

頼性が論点となってきた<sup>24</sup>。モデレーション制度をとりいれた、高校での成績評価に基づく高大接続システムの提案もある<sup>25</sup>。

しかし、フランスでの議論からわかる通り、内申点評価を導入する限り、モデレーション制度を整備しても、採点のバイアスは消せず、100%の公正性は担保できない。学校・教師間で評価基準は統一できたとしても、教師の心を透明にすることはできない。採点のバイアスは、生徒の文脈や、教師と生徒間・教師と保護者間・教師間の関係性から生まれてくるものであり、制度でコントロールできないものだからである。モデレーションは、手続的公正性を確保するだけで、実質的公正性は担保できないのである。

日仏の高大接続は、逆の方向に向かっている。日本では、内申書に基づく推薦入試やAO入試は「学力不問」になりえるので、その学力担保のルールを作ろうとしている。一方、フランスでは、共通の学力（思考力・表現力）を問うてきたバカロレア試験一発勝負をやめ、内申点を導入しようとしている。入試における内申書活用の功罪を映し出すものとして、フランスでの改革の推移と議論を今後も辿っていきたい。

\*本発表は、JSPS 科研費 17H07253「研究活動スタート支援」（2017～2018 年度、研究代表者）「論述型の大学入試に向けた高校での指導・評価法の研究：フランスでの取り組みを通して」の助成を受けたものである。

---

<sup>24</sup> 田中耕治『『目標に準拠した評価』をめぐる現状と課題—内申書問題が提起するもの—』『教育目標・評価学会紀要』第 18 号、2008 年、pp. 1-7。

<sup>25</sup> 山村滋「知識基盤社会の高大接続システム—新学習指導要領の背景にある世界的動向に照らして—」『教育制度学研究』第 24 号、2017 年、pp. 19-31。